様 式 － 1

質 疑 回 答 書 （ 工 事 ）

関係者　各位

工事名　　蛎原２号雨水幹線整備工事（９工区）

工事場所　　宮崎市大字本郷南方

宮崎市　建設部　土木課長
（ 公 印 省 略 ）

下記のとおり回答いたします。

記

質　疑　事　項	回　答
施工期間中、工事内容により既設道路通行止めが予想されます。 通行止めによる施工は可能でしょうか？	原則片側通行規制での施工としています。 通行止めについては、受注後の協議とします。
開削工法区間に仮排水路が輻輳しますが、鋼矢板に？口部を開口するのでしょうか？	開口は不要とします。
設計書-推進工-裏込注入機材費-裏込注入消耗品-施工第 0-020 号単価表の諸雑費 86.7m3 と表記しておりますが、どのように積算するのでしょうか？	断面積 0.9m3/m×施工延長 96.336m=86.7m3 諸雑費単価として施工第 0-018 号裏込注入材料の 3%を計上しています。

設計書-明細第006号-施工第0-055号単価表の各土質ごとの削孔長、各土質注入土量、注入率、注入材料名などご提示いただけないでしょうか？	提示します。※別添１
入札公告-工期について、例えば、出水期施工は可能でしょうか？ 出水期施工制限はあるのでしょうか？	出水期の施工は可能(強雨不可)。気象条件等やその他やむを得ない事由が発生した場合は協議とします。

（担当者：土木課　小城　正樹）

地 盤 改 良 工 数 量 集 計 表

薬液注入工　二重管ストレーナ工法　複相式

施 工 場 所		削孔長				注入長	注　入 対象土量 v	注入量 V	施工本数
		土 質 別 内 訳							
区　分	細 分	粘性土	砂質土	砂れき土	全削孔長				
		m	m	m	m	m	m3	kl	本
□-3.2×1.5	曲線防護　外側		3.248		3.248	2.248	65.75	26.630	38
□-3.2×1.5	曲線防護　内側		3.248		3.248	2.248	65.75	26.630	38
□-3.0×1.5	曲線防護　外側		3.208		3.208	2.208	46.79	18.949	27
□-3.0×1.5	曲線防護　内側		3.208		3.208	2.208	46.79	18.949	27
合計							225.08	91.158	130

施工日数	4セット施工の場合	（日）	7

薬液注入工数量計算書

二重管ストレーナ工法　複相方式

施工場所		削孔長				注入長							注入対象地山寸法						注入材料	
		削孔長 内訳			計	注入長 内訳						計	幅 (W)	長 (L)	注入面積	注入対象土量v	土被り	注入本数	1: 懸濁形 2: 溶液形	
区　分	細　分	粘性土	砂質土	礫質土		粘性土	N値	砂質土	N値	砂れき土	N値									
		m	m	m	m	m		m		m		m	m	m	m^2	m^3	m	本		
□-3.2×1.5	曲線防護　外側		3.248		3.248			2.248	12			2.248	1.500	19.502	29.25	65.75	1.000	38	2	溶液形
□-3.2×1.5	曲線防護　内側		3.248		3.248			2.248	12			2.248	1.500	19.502	29.25	65.75	1.000	38	2	溶液形
□-3.0×1.5	曲線防護　外側		3.208		3.208			2.208	12			2.208	1.500	14.128	21.19	46.79	1.000	27	2	溶液形
□-3.0×1.5	曲線防護　内側		3.208		3.208			2.208	12			2.208	1.500	14.128	21.19	46.79	1.000	27	2	溶液形

薬液注入工数量計算表

二重管ストレーナ工法　複相方式

施工場所 区分	施工場所 細分	削孔長 削孔長内訳 粘性土	削孔長 削孔長内訳 砂質土	削孔長 削孔長内訳 礫質土	削孔長 計	注入面積	注入率内訳 粘性土注入率 粘性土	粘性土注入率 N値	粘性土注入率 注入率	砂質土注入率 砂質土	砂質土注入率 N値	砂質土注入率 注入率	砂れき土注入率 砂礫土	砂れき土注入率 N値	砂れき土注入率 注入率	注入量 土質別内訳 粘性土	注入量 土質別内訳 砂質土	注入量 土質別内訳 砂礫土	注入量 計	1本当り施工時間	1日当り施工本数	1本当り注入量	注入材料 懸濁形	注入材料 溶液形	注入比率 瞬結材：緩結材	注入本数	運転日数
		m	m	m	m	m^2	m		%	m		%	m		%	kl	kl	kl	kl	分/本	本/日	kl/本	kl	kl		本	日
□-3.2×1.5	曲線防護 外側		3.248		3.248	29.25				2.248	12	40.5					26.630		26.630	76.1	19.9	0.701		26.630	1:2～3	38	1.9
□-3.2×1.5	曲線防護 内側		3.248		3.248	29.25				2.248	12	40.5					26.630		26.630	76.1	19.9	0.701		26.630	1:2～3	38	1.9
□-3.0×1.5	曲線防護 外側		3.208		3.208	21.19				2.208	12	40.5					18.949		18.949	75.9	19.9	0.702		18.949	1:2～3	27	1.4
□-3.0×1.5	曲線防護 内側		3.208		3.208	21.19				2.208	12	40.5					18.949		18.949	75.9	19.9	0.702		18.949	1:2～3	27	1.4
計																			91.158					91.158		130	6.6

▪1本当り施工時間（Ts）

Ts＝T1＋T2＋T3＋T4

ここに、 Ts：二重管ストレーナ工法1本当り施工時間 (min)

T1：機械準備時間（14分） (min)

T2：削孔時間 T2=∑（γ1×l0) (min)

土質	礫質土	砂質土	粘性土
γ1	8.0	5.0	4.0

T3：注入時間 ＝Qs／qs (min)

工法名	単相式	複相式
qs	18	16

T4：土被り引抜時間 ＝γ2×l2 (min)

l2：土被り長（m）

γ2	2.0

▪1本当り注入量

Qs＝(V×1000)/n

ここに、Qs：二重管ストレーナ工法の1本当り注入量(ﾘｯﾄﾙ/本)

V：総注入量(ﾘｯﾄﾙ)

n：注入本数(本)

▪1日当り施工本数

N＝60×H／Ts×4

ここに、N：4セット1日当り施工本数（本／日）

H：注入設備の1日当り実作業時間で6.3 時間とする。

Ts：1本当り施工時間（min）

▪移動設備(車上ﾌﾟﾗﾝﾄ)運転日数

運転日数＝ V / Qs ×N